

# 安全運転診断（エールドライブ）を利用して 運転支援を行った症例報告

中山聖悟 園原和樹  
医療法人社団敬仁会 桔梗ヶ原病院認知症疾患医療センター

## I. 目的

当センターには高齢者の運転免許更新に関連して病院受診に至る事例も多く認めるが、一般的に認知症に関係した運転技能は評価方法と判断基準は確立されていない。そこで今回は外部の運転診断サービス（エールドライブ）を用いて言語機能障害を有する方の運転能力を評価し、運転支援を行った症例について報告する。

## II. 方法

エールドライブはドライブレコーダーを用いて高齢者の運転能力を評価するサービスである。自家用車に設置されたドライブレコーダーの運転映像データをもとに、分析員（教習所指導員経験者）が映像解析を行い、総合所見と注意点をまとめたチェックシートとDVDを情報提供する。



高齢者安全運転診断センター（高安診）HPより <https://kooansin.or.jp/>

## 倫理的配慮

本症例発表にあたり本人・家族に発表の目的と個人情報の取り扱いについて説明し、同意を得た。

## III. 症例

対象 : 76歳男性  
主訴 : 運転評価希望  
既往歴 : 脳アミロイド血管症 糖尿病 高血圧 鼠径ヘルニア  
経緯 : 2年前から言葉の出にくさを主訴に他医療機関に受診していたが症状改善されず。高齢者の運転免許更新時の認知機能検査の成績不良となり主治医に相談、運転評価を目的に当院紹介となった。

## 検査結果

<検査態度>  
身だしなみ整い礼節保たれ協力的。やや緊張は強い。言葉が出ない事に対してイライラした様子をみせる。

MMSE : 25/30      HDS-R : 21/30  
GDS : 5/15  
DBD（認知症行動障害尺度） : 4/112  
Berthel Index : 100/100  
Frenchay Activities Index : 31/45

失点は場所の見当識、復唱、3段階の指示、視覚記銘、語想起。  
記憶機能は保たれているが、言語機能障害（喚語困難）があると考えられた。

### 標準失語症検査

聴覚的理解は単語理解に軽度障害。  
視覚的理解では難しい漢字で読字障害あり  
喚語では呼称、語想起いずれも障害。迂遠表現での伝達、物品使用は可能。  
復唱は障害。

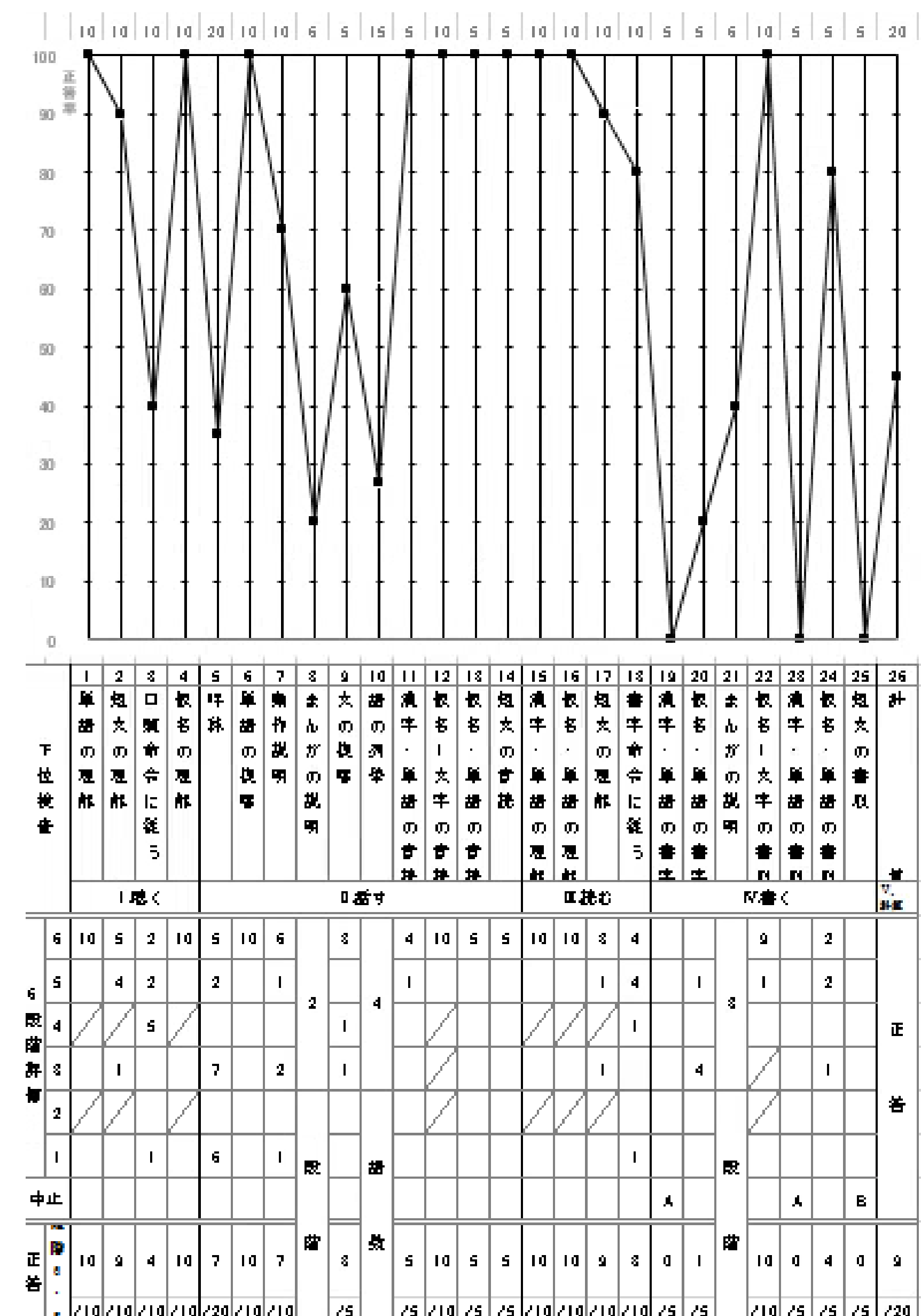


図1 標準失語症検査の結果

### 頭部MRI

- ・脳萎縮は全般性。側頭葉は左側優位の萎縮あり。
- ・海馬萎縮は目立たず。
- ・右前頭葉に小梗塞、両側穿通枝領域にlacunar散在。

## 診断：原発性進行性失語（MCILレベル）

当初は意味性認知症疑いであり、標識理解など運転ルールに従えるか懸念があった。

## 運転評価

- ①エールドライブを導入して運転評価を実施  
→標識理解に問題が無いことが確認された。他方「目線が近く車体のふらつき」が指摘された。
- ②院内運転支援チームの評価  
→車線のブレ、加齢による判断の遅さが見られるが現時点では運転継続可能との評価。

最終的に運転指導（遠方視、昼間、慣れた道、余裕を持った運転）を行い、運転継続可能との判断に至る。

## その後の支援

言語聴覚士による言語リハビリテーション導入。支援開始から1年後、標準失語症検査による再評価では全体的に軽度の言語機能低下あるが、自然状況下での疎通性は大きな低下無し。  
支援を通して本人・家族が将来の見通しを持つことができ、将来的に運転が不要な都市地域へ住環境を変更させるというゴール設定に至った。

## 考察

エールドライブは認知症と言語障害の方の運転評価・支援ツールの1つとして有用である可能性が示された。

第42回日本認知症学会学術集会  
利益相反開示  
筆頭発表者名：中山 聖悟  
本演題発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。